

2020年度事業計画

福岡国際空港株式会社

1. 取組方針及び目標値

取組方針

- 安全・保安体制を充実し、周辺地域にも配慮した上で、福岡空港の運営を安定的に着実に実行します。
- 2020年夏ダイヤ以降の発着枠増枠（3枠／時間）を最大限活用し、需要旺盛な中国からの新規就航の実現、東南アジア及び欧米豪の長距離路線の誘致・需要喚起に注力し、バランスの取れたネットワークポートフォリオの構築を目指します。
- 国内線地区、国際線地区及び内陸連絡道路の具体的な整備を開始し、2024年度の増設滑走路の供用開始前の竣工を目指します。

旅客数	
	2020年度
旅客数	2,500万人
国内線	1,850万人
国際線	650万人

貨物取扱量	
	2020年度
貨物取扱量	26万トン
国内線	21万トン
国際線	5万トン

財務指標

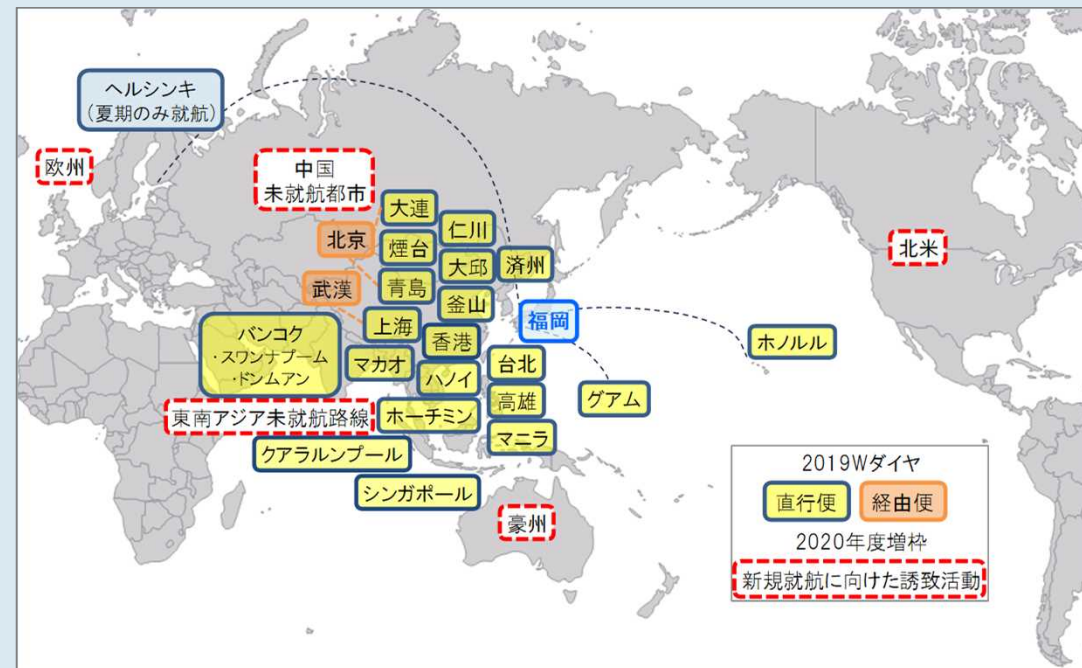
項目（単位：億円）	2020年度
営業収益 （内、空港運営事業）	525 (110)
営業費用 （運営権償却費を含む）	507
営業利益	18
当期純利益	▲60
親会社株主に帰属する当期純利益	▲61

2. 国際線ネットワークの拡充

2. 旅客増・ネットワーク拡充に向けて

- 2020年夏ダイヤ(2020年3月29日～)より、発着枠数が一時間あたり35回から38回に増枠。増枠総数に対してエアラインより約5倍の就航リクエストが有り、引き続き各方面より旺盛な就航需要が期待される環境下に於いて、戦略的なネットワーク構築に注力する。

- 中国新規路線の確実な就航実現、及び更なる路線網拡充に向けた誘致活動の継続
- 東南アジア路線及び長距離路線の就航に向けたエアラインとの継続協議
- 需要活性化の推進（行政及び観光推進機関との連携、FAMトリップの実施、等）



2. 国際線ネットワークの拡充

2. 旅客増・ネットワーク拡充に向けて

■ 新規就航エアラインの受け入れ体制の整備

- グランドハンドリング体制（グラハン人材、GSE機材、旅客オペレーション（諸室、カウンター、ターミナル展開計画）や給油サービス、等）の整備
- 敷地が狭隘な福岡空港に於いて、GSE機材の配置・保管場所不足を解消する効率運用の検討

■ 2020年度より新しい料金施策の導入

- 東・東南アジア路線や長距離路線の新規就航と定着に向けた料金割引制度の導入
- エアラインに分かり易く、周辺地域への航空機騒音に配慮した料金体系の導入

3. 航空旅客の満足度向上に向けた取組み

(※利便性向上に関する施策の基本的な考え方: **Free**『楽に』 **Fast**『早く』 **Fun**『楽しく』)

3. 旅客サービス・利便性の向上

■ 国内線地区：おもてなし環境・賑わいの創出

- Fun** • 空港内でゆっくり楽しんで頂ける店舗整備（100店舗以上：飲食、お土産、サービス等）
- Fun** • 航空機を見ながら楽しめる空間（展望デッキ・ビアテラス）の整備

■ 国際線/国内線地区：搭乗手続きの効率化及び受入環境の整備

- 国際線/出発手続き時間の短縮
- Fast**
 - ✓ インラインスクリーニングの導入
 - ✓ 自動チェックイン機の増設、及び自動手荷物預入機の導入
- Free** • 国際線旅客ビル施設(増築)整備（1,600万人対応）に向けた設計・建設開始
- Free** • 国内線ターミナル/出発・到着エリア拡張に向けた設計推進
- 内陸連絡道路：ターミナル間の移動時間短縮に向けた整備
- Fast** • 専用道路化（片道15分を5分に短縮）に向けた設計・建設開始



展望デッキ(イメージ)



ビアテラス(イメージ)

4. 時間価値・空間価値を高める取組み

4. エアポートシティの実現

- 国内線地区・国際線地区にバスターミナル・ホテル・商業施設を開発
 - 国内線地区／複合施設（一般空港利用客：年間800万人以上）の詳細設計を推進
- 国内線／国際線地区の駐車場
 - 駐車台数の規模を拡大(※)し、再整備に取り組む
 - 国内線／国際線地区の駐車場の設計・建設開始

※計画台数：国内線地区 約1,600台、国際線地区 約2,100台



出所：梓設計・隈研吾建築都市設計事務所・西日本技術開発共同企業体
複合施設・立体駐車場(イメージ)

5-6. 安全に関する取り組み、地域共生事業

5. 安全・保安の強化

- オペレーションセンター(F-APOC)※の安定運用 (※運用・監視・予測に係る情報の一元管理)
- 大規模自然災害、パンデミックへの対策強化、空港事業継続計画(BCP)の充実
- 不審者検知システムの導入
- 空港基本施設(滑走路・エプロン等)の着実な機能維持
- 奈多地区／ヘリポートの安全運営・F-APOCとの連携

6. 地域共生事業

- 地域団体・周辺地域の要望を踏まえた地域共生事業(まちづくり・ひとづくり)の推進
- 地元行事などの地域活動に積極的に参加

7-8. 北九州空港との連携、設備投資

7. 福岡県の空港の将来構想の実現に係る協力量針

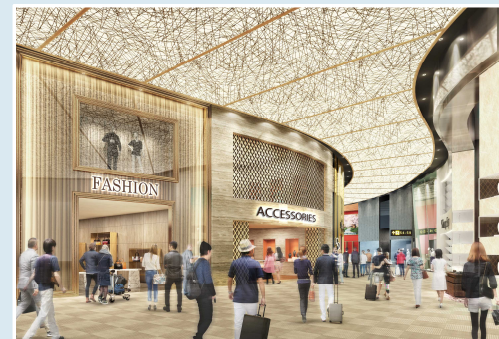
24時間利用可能な空港、発着枠に余裕がある北九州空港の特性を活かし、

- 福岡空港では発着枠を取得できない、または利用時間外での就航を希望するエアラインの北九州空港への誘導
- 北九州空港と一体となり、国際展示会で福岡のプロモーション活動を推進

8. 設備投資

空港活性化を目的とする設備投資：約120億円

- 国内線：立体駐車場の設計・着工、複合施設の設計
- 国際線：立体駐車場（第一期）の設計・着工、旅客ビル施設（増築）整備の設計・着工
- 内陸連絡道路：専用道路化に向けた設計・着工



国際線3階免税店(イメージ)

空港機能維持を目的とする設備投資他：約30億円

- 空港基本施設の維持管理
- 旅客ビル施設に関する修繕・更新 他



国際線1階到着ロビー(イメージ)